

平成31年度 第62回関東高等学校体育大会千葉県予選サッカーの部

マッチレポート

【準決勝】

中央学院 vs 暁星国際

中央学院は1-4-2-3-1、暁星国際は1-4-4-2のシステムでキックオフ。中央学院は⑧松田が積極的にビルドアップに関わり中盤のパスワークのリズムを作ったり、⑩古山が相手DFラインの前のスペースからドリブルで仕掛けたりして攻撃を組み立てる。対して暁星国際は3ラインをコンパクトにして奪ったボールを⑮林を中心にシンプルに動かして2FWの④乙黒、⑪二見のポストプレーからサイド攻撃を展開し好機を伺う。中央学院がパスワークとドリブル、素早い攻守の切り替えからペースを握り、⑦藤本が右サイドからドリブルで仕掛けてペナルティエリアに侵入をしようとしたところでPKを獲得し、中央学院が先制する。後半に入り、ボールを支配する中央学院のペースで試合が進んだが、暁星国際は⑧桑原⑨矢部の2枚を同時に投入し試合の流れを変えようと試みる。徐々に暁星国際が中盤で奪ったボールをショートカウンターにつなげてチャンスを作り出すが、中央学院GK古川の2度のビッグセーブに阻まれ得点には至らず。暁星国際は終盤に高さのある⑤桑田を前線に上げてサイドからのクロスによりゴールを目指すが最後まで粘り強く対応する中央学院の守備陣からゴールを奪えずに1-0で中央学院が勝利し、決勝に進出し関東大会出場を決めた。

【準決勝】

敬愛学園 vs 専修大松戸

敬愛学園は1-4-3-3システム、専修大松戸は1-4-4-2システムでキックオフ。専修大松戸は中盤をダイヤモンドにすることでマークをはめ込み、ボール奪取を試みる。両チームとも中間のサポートを繰り返し、ショートパスをつないで前進する。専修大松戸は⑩吉川の背後への飛び出しと複数の選手が距離を近くしてのコンビネーションでチャンスを作り出す。高い位置やペナルティエリア内では積極的な仕掛けと関わりでシュートチャンスを数多く作り出した。敬愛学園はボール奪取後のスムーズなカウンター攻撃でゴール前までボールを進める。また、相手DFラインとMFの間で前向きの選手を作り出し、追い越すサポートで相手を崩しにかかる。右サイド⑦田仲のドリブルが攻撃のポイントになっていた。お互いに自分たちの形からの得点と相手のミスをきっかけにしての得点を奪い、4-2で専修大松戸が勝利した。

【決勝戦】

中央学院 vs 専修大松戸

中央学院は1-4-2-3-1、専修大松戸は1-4-4-2（中盤ダイヤモンド）のシステムでキックオフ。立ち上がりからペースを握った専修大松戸は前半早々に⑩がドリブルで仕掛けてペナルティエリア内に侵入しPKを獲得し専修大松戸が先制。中央学院は⑧松田からのサイドチェンジから⑦藤本がドリブルで仕掛けて攻撃のリズムを作る。そして⑦藤本の突破からPKを獲得しこれを決めて同点に追いつく。その後、専修大松戸はDFラインから相手のギャップを突くパスと狭いスペースの局面を1タッチ2タッチで打開しようと試みる攻撃で試合のペースを引き寄せたが、中央学院はサイドチェンジを有効に活用し徐々にチャンスを作り出す。後半、専修大松戸は流れを引き寄せようと1年生⑱西野や⑨伊東を投入しゴールへ迫るが中央学院のゴール前の粘り強い守備に阻まれる。結局80分では決着が付かず延長戦に突入。延長戦前半、⑦藤本のドリブル突破からスルーパスに⑯青木が反応し見事な反転からダイレクトシュートを決めて勝ち越し、その後⑦藤本、⑨伊東が追加点を決めて4-1で勝利し優勝を決めた。